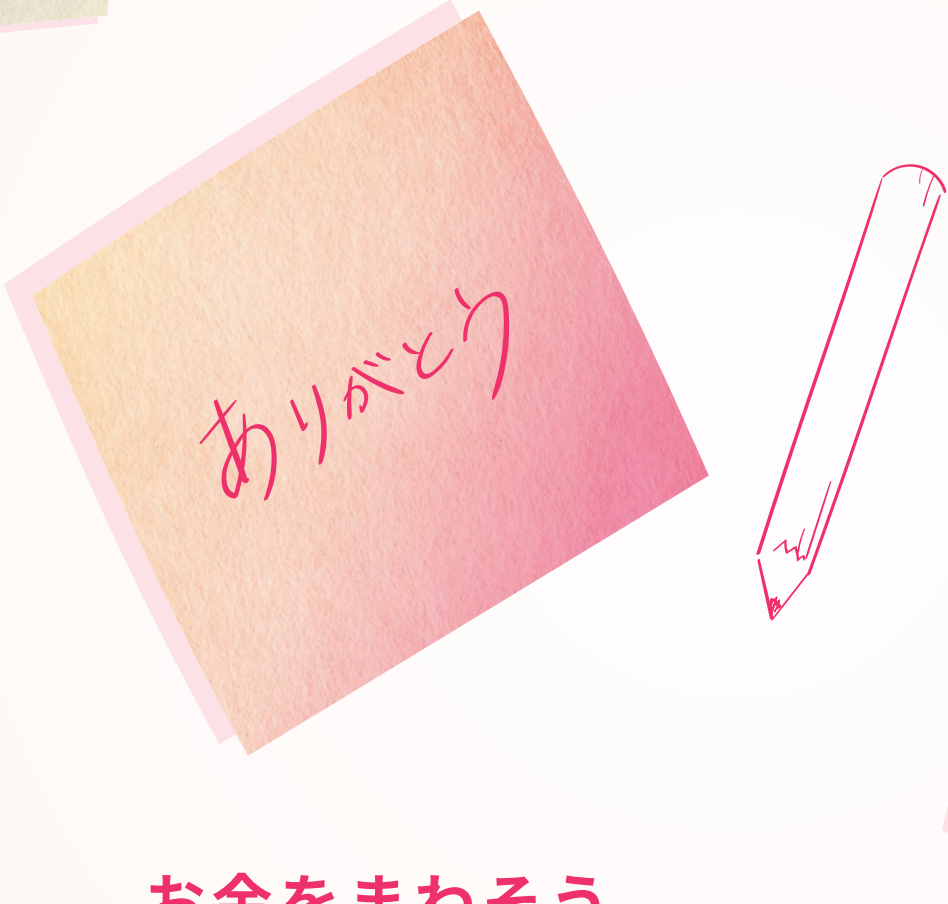




2021

公益財団法人お金をまわそう基金

Annual Report



ありがとう

お金をまわそう。 人々の想いをのせて。

2021年12月1日、公益財団法人お金をまわそう基金は第7期を迎えました。

第6期は、昨年に続き新型コロナウイルスが猛威を振るう困難の多い年ではありましたが、19団体20事業にみなさまからの心のこもった温かいご寄付を届けることができました。「必要なところに必要なお金がまわる社会をつくる」という私たちの想いに共感し、支援してくださったみなさまに心から感謝申し上げます。

みなさまからのご寄付は、その想いをのせて助成先団体に届き、それぞれの事業に活用されました。コロナ禍にあって、各団体とも危機的な状況乗り越えるために工夫を重ね、あらゆる対策を講じ、受益者に影響が出ないよう、かつ最高の喜びを感じてもらえるよう、迅速に対応し続けていました。

みなさまの強い想いが支えとなって、助成先団体も当財団も事業を続けてこられました。本当にありがとうございました。

第7期も私たちは民間公益活動の担い手として、助成先団体とともに歩んでまいります。引き続き私たちの活動に、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**お金をまわそう基金は社会課題の解決をめざす団体と寄付者をつなぐ、
えんづくりのプラットフォームです**

- ・助成先団体を責任をもって選びます
- ・助成先団体の活動を広め、共感とともに寄付を募ります
- ・お預かりした寄付は100%助成先団体に届けます

Contents

03 ごあいさつ

05 お金をまわそう基金のえんづくり

07 助成先団体のご紹介

■子ども分野

- 08 一般社団法人ふたば
一般社団法人星つむぎの村
- 09 公益財団法人あいである
公益財団法人がんの子どもを守る会
- 10 公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO（旅行事業）
特定非営利活動法人クリエイト
- 11 特定非営利活動法人しぶたね
特定非営利活動法人タイガーマスク基金
- 12 特定非営利活動法人みかんぐみ
特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク（わいわいくらぶ）
- 13 特定非営利活動法人福岡教育サポート

■スポーツ分野

- 13 一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN

■地域社会分野

- 14 特定非営利活動法人ウルシネクスト
特定非営利活動法人モンキーマジック
- 15 認定特定非営利活動法人ハーベスト

■文化・伝統技術分野

- 15 一般財団法人日本京劇振興協会
- 16 公益財団法人山本能楽堂
分野別寄付のご案内

17 お金をまわそう基金×休眠預金等活用事業

実行団体紹介

■子ども分野

- 17 公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO（交流事業）
- 18 公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を
特定非営利活動法人 Lino

19 お金をまわそう基金 活動紹介

- 20 寄付者・代表者インタビュー「Shall We KIFU?」
- 21 助成先団体の活動報告
- 22 助成先団体とのセミナー・助成先団体交流会

23 決算報告

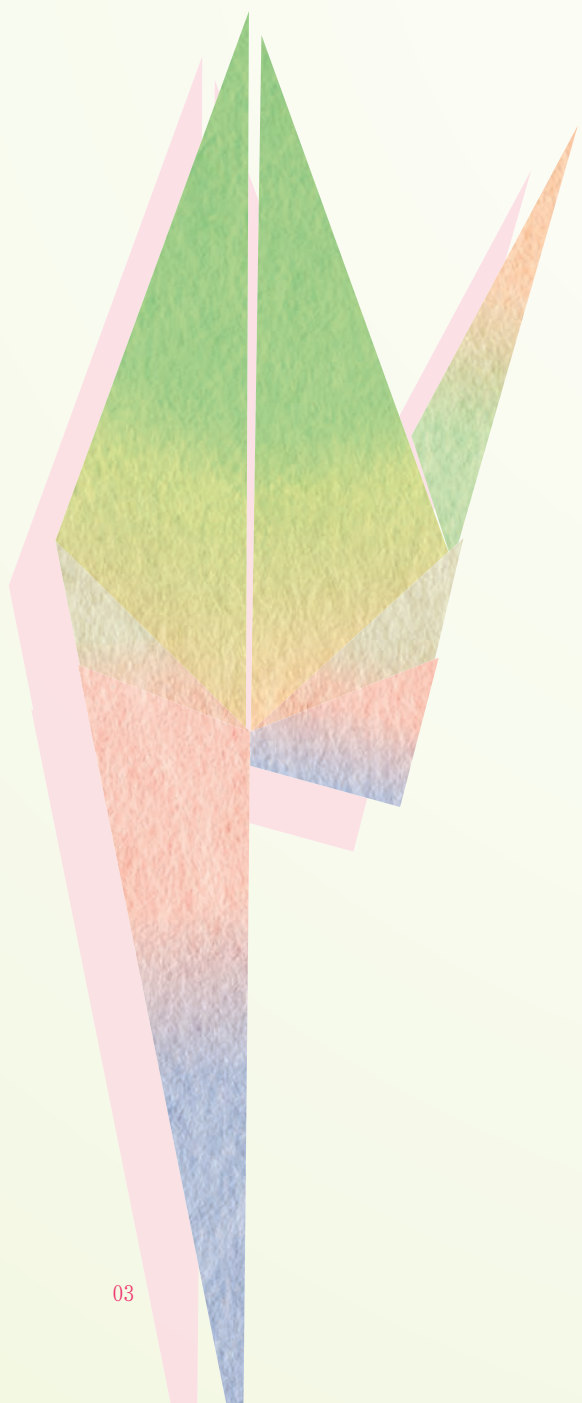
25 第7期に向けて

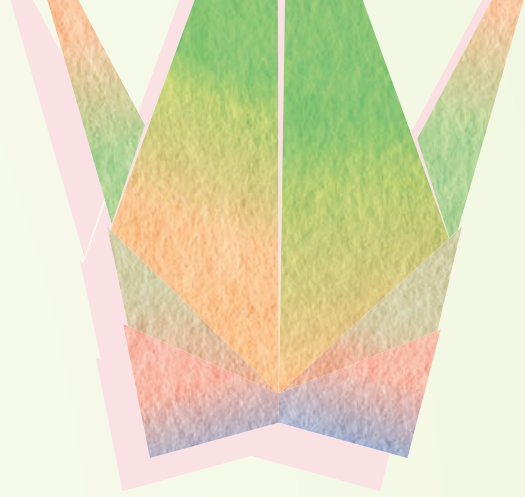
26 寄付の取り扱いについて

経済はお金をまわすことだ。

であるならば、お金をまわせる人から動く。

それしかない。





おかげさまで、「お金をまわそう基金」は第6期も、公益財団法人としての仕事をしっかりと務めることができました。コロナ感染拡大防止もあって、社会全体の動きにブレーキがかかりがちな状況下でしたが、助成先団体と一緒に第6期も頑張りました。

また、多くの皆様から多額のご寄付が寄せられたこと、厚く感謝申し上げます。助成先の団体を通して、多くの方々に喜んでもらえました。

第7期も、当財団はコロナなどに負けるものかと、意気軒高な姿勢を貫きます。助成先を含めて、社会のあちこちで立派な活動が続けられています。そのお手伝いをさせていただこうとしている当財団は、ますます支援活動のスケールアップを目指します。

これは当財団が設立された最大の理由ですが、日本に寄付の文化を高めていくことは社会的急務と考えます。というのも、日本には969兆円もの個人マネーが預貯金に眠ったままなのです。(2021年9月末、日銀統計)

これは世界最大のムダです。日本経済の1.8倍という巨額資金が、年0.01%の利子しかつかない程度の働きに甘んじているのです。なにしろ、1万年かけても2倍にならないのですから、利殖どころの話ではありません。

その一部でもお金に働いてもらいましょう。それが、日本に寄付の文化を高めていきたい最大の目的です。当財団の使命といっても差し支えありません。

たとえば預貯金の3%が寄付にまわるだけでも29兆円と、国の社会保障予算35兆円の83%という巨額さです。それだけの寄付が生活困窮者や社会的弱者といった方々にまわれば、どれだけ多くの人に喜んでもらえることでしょう。

それだけでは終わらないのです。寄付先の皆さんが生活費や欲しかったモノなどへの消費にまわしてくれることで、経済の現場は大いに活況となります。そして、日本経済は即座に5.4%もの成長をしてしまうのです。すごいと思いませんか？

このように、寄付の文化を高めることで、多くの人々に喜んでもらえ、日本経済も成長し社会も元気になるのです。いいことづくめです。

お金をまわそう基金としましても、ますます気合が入ります。

公益財団法人お金をまわそう基金

代表理事

- お金をまわそう基金のえんづくり -

社会的課題を解決するために活動している非営利団体に
3つの「えん」でお金をまわします

えん

縁

助成先団体の想いや
活動を広く知っていただき、
共感の輪を広げ、支援者と
団体のご縁をつなぎます

えん

円

事業に共感した
支援者からの寄付金を
100%助成先団体に
届けます

えん

〇

「ご縁」と「円」を
積み重ね、寄付で社会に
お金が循環する仕組みを
作ります

寄付に必要なのは「どれだけ与えたか」ではなく
「どれだけ想いを注いだか」にあります。

お金をまわそう基金は
「えんづくりのプラットフォーム」です

助成先団体と
支援者を繋げる

「縁」づくり

これまでリアルなモノやコトに消費されてきたお金が、コロナ禍を経て、体験消費、非日常消費などにシフトしています。その中に「寄付」という選択肢が加われば、日本の寄付文化は高まり、社会経済活動はより豊かになります。

支援者の想いと助成先団体の活動をつなぐお金をまわそう基金の「縁づくり」事業。

困難な状況下だからこそ、私たちは寄付から生まれる「ご縁」の素晴らしさを、これまで以上に深く感じることができました。

お金をまわそう基金は「寄付」を通して得られる「こころのまんぞく」をさらに多くの方に知っていただき、支援者と助成先団体とのご縁をつなぐことで、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献します。

支援者の想いを 100%届ける

「円」づくり

私たちは、みなさまからお預かりした寄付金を、より良い社会を目指し活動する団体にお届けしています。第6期は19団体20事業に総額1,594万円の助成金を届けることができました。これは、ひとえにご支援いただいたみなさまのおかげです。心より御礼申し上げます。第7期も助成先団体と協力し、活動の成果を高めて、みなさまにお知らせしてまいります。

	第2期 (2017年度)	第3期 (2018年度)	第4期 (2019年度)	第5期 (2020年度)	第6期 (2021年度)
寄付者数 (のべ)	135人	557人	1,393人	1,456人	1,197人
助成先団体数	4団体	7団体	11団体	19団体	19団体
助成事業数	4事業	7事業	11事業	20事業	20事業
助成額	429万円	577万円	1,556万円	2,815万円	1,594万円

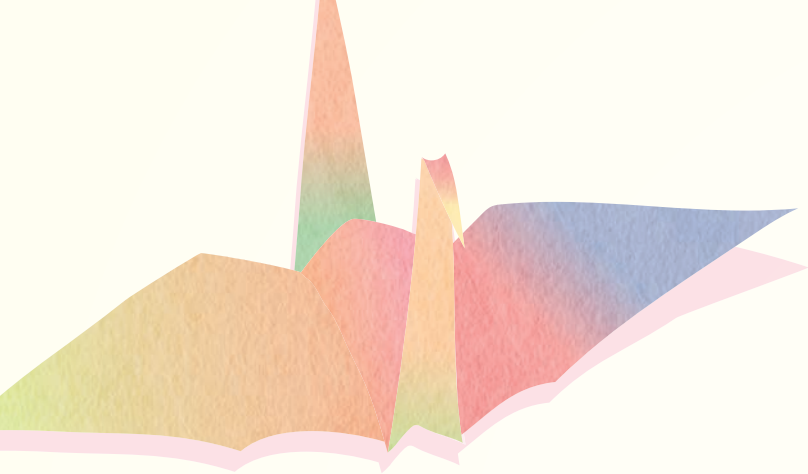
※寄付者数は複数回寄付している方や法人を含みます。※事業期間は12月1日から11月30日です。※当財団運営費への寄付は除きます。

●助成額内訳

助成先団体名	事業概要	助成額(円)
■休眠預金等活用事業		
公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO (交流事業)	医療的ケア児とその家族同士の交流事業	724,424
公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を	離島在住の医療的ケア児とその家族の応援事業	2,177,408
特定非営利活動法人 Lino	医療的ケア児とその家族の旅行体験や映画上映会	2,858,644
■通常事業		
一般社団法人ふたば	生活困窮家庭の子どもたちのための生活体験支援事業	573,603
一般社団法人星つむぎの村	病児や障害児に届ける「フライングプラネタリウム」	291,594
公益財団法人あいである	児童養護施設の子どものために正しいお金の管理をレクチャー	399,960
公益財団法人がんの子どもを守る会	小児がん患児とその家族のための相談事業	536,750
公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO (旅行事業)	難病児の夢の実現と思い出づくりのための東京旅行	182,697
特定非営利活動法人 クリエイト	不登校児等のためのフリースクール運営事業	2,871,398
特定非営利活動法人 しぶたね	病気のある子どもの「きょうだい」の心をつなぐオンライン事業	222,800
特定非営利活動法人 タイガーマスク基金	児童養護施設出身学生への大学進学支援金給付事業	476,224
特定非営利活動法人 みかんぐみ	重症心身障害児、医療的ケア児を持つ家族のピア相談	515,500
特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク	重症心身障害児の放課後等デイケア	673,200
特定非営利活動法人 福岡教育サポート	学習機会に恵まれない子どもたちのための無料塾	999,554
一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN	ASJ「いのちの教室」が日本中で毎日開催される社会へ	299,160
特定非営利活動法人 ウルシネクスト	サステナブルな天然素材「漆」を後世に残す「漆の森づくり」事業	1,480,646
特定非営利活動法人 モンキーマジック	障害のある人もない人も楽しめる交流型クライミングイベント	11,780
認定特定非営利活動法人 ハーベスト	中高校生のための車座制キャリアセミナーとトークフォークダンス	232,630
一般財団法人 日本京劇振興協会	中国伝統芸能「京劇」の日本での振興活動と福祉支援	301,598
公益財団法人 山本能楽堂	新作品「オルフェウス」の日本公演の魅力を世界に発信	115,230

お金をまわそう基金では、寄付金の適正な活用を最後まで責任をもって見届けます。

※詳細は団体別のページをご覧ください。



助成先団体のご紹介

大学生と一緒に学ぼう！

貧困家庭の子どもたちにたくさんの体験を届けたい



一般社団法人
ふたば



寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31

助成申請額：573,603円

助成金額：573,603円

一般社団法人ふたばは、2019年岩手の女性3名で設立した法人です。岩手県や盛岡市からの委託や補助を受け、生活困窮家庭の子ども達への学習支援を行っています。参加している子ども達の話の一人ひとり聞いてみると、その子に必要なサポートは何なのかが見えてきます。学習のサポートなのか、食事なのか、ただ話を聞いてあげることなのか、一緒に隣にいることなのか、何かを体験する機会なのか…

勉強を教えるだけでは貧困問題の解決は難しく、学習支援プラス様々なことに触れる・経験するなどという生活支援が子ども達の成長に不可欠です。

今回、皆さまからのご支援で、子ども達の「人生のちょっと先輩」である大学生サポーターによるワークショップを開催しています。実際に企業さんを訪問し、働いている方との交流を図る職場見学、月経に関する情報提供や相談活動、絵本の読み聞かせ、メニュー考案から後片づけまでを行う調理活動等、様々な体験活動を実施しています。

体験や新しい発見・学びはもちろんのこと、子ども達に「楽しい時間を過ごした！」と感じてほしいと大学生サポーター達は試行錯誤しながら日々活動しています。

今後も、子ども達が様々なことを安心して学べる場を絶やさぬよう活動していきたいと思います。この度は温かいご支援、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスの影響は、もともと弱い立場の人たちに大きな影響が出る逆累進性をもっています。中でも「困難を抱える子どもたち」の置かれている状況は、看過できない状態にあります。14万人の難病児、18,000人の医療的ケア児はもとより、発達障害を持つ子どもは50万人余り、7人に1人は貧困状態です。

プラネタリウムの映し出す星空とその向こうに広がる宇宙。広大な宇宙の中の小さな地球に暮らす私達。宇宙の中の自分という視点は、生命の尊さや時空を超えた他者とのつながりを気づかせてくれます。

星つむぎの村では、困難を抱える子どもたちに、ともに星を見あげることによって「ひとりじゃない」というメッセージを伝えます。星には人と人をつなぐ力があります。星を見た経験が、きっと心の支えになる。そんな機会をフライングプラネタリウムがお届けします。

フライングプラネタリウムは、インターネットライブや動画上映でプラネタリウムの投影を可能にしています。非接触型で、コロナ禍の影響を受けることなく、子どもたちに星空を届けることができます。

今回のご寄付により、フライングプラネタリウムの実施に必要な天井投影用プロジェクターと高スペックのパソコンの整備が可能になります。これまでにご寄付をいただきました皆様に感謝を申し上げるとともに、一人でも多くの困難を抱える子どもたちに星空を届けることができるように、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

ぼくらはひとりじゃない

～困難を抱える子どもとともに見上げる星空～



一般社団法人
星つむぎの村



寄付募集期間：2020/09/01～2021/04/30

助成申請額：529,000円

助成金額：399,388円

児童養護施設で暮らす子どもの 自立を支援しています



公益財団法人
あいである



寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31
助成申請額：399,960円
助成金額：399,960円

あいであるは「児童養護施設で養育されている子ども」の自立支援を行う公益財団法人です。

児童養護施設で養育されている子どもは、社会で生活をはじめることへの準備も整わず、法律的、金銭的な後ろ盾もない中、18歳という年齢に達したというだけで自活を始めます。生活費やお金の管理、コミュニケーションの仕方など、社会人として必要なスキルが身に付いていないため、退所後の生活で金銭的なトラブルに巻き込まれるなど、苦労することが多くあります。

そこで、あいであるではオリジナルツール「マネークリップ」を開発し、児童養護施設職員及び児童養護施設で養育されている子どもを対象として、施設退所後のお金の管理や生活設計について、楽しくゲーム形式で体験できるレクチャーを行っています。どのような場面でお金を使うのか、どのような判断をしているのかをレクチャーカードで確認しながらゲームを行うことで、少しずつお金に関するスキルを身に付けることができます。

従来は施設訪問によるレクチャーを行っていましたが、コロナ禍の影響で、施設訪問が制限され、思うように支援活動ができずにいました。しかし、今回皆さまからお寄せいただいたご寄付で、マネークリップレクチャーの動画を制作し、配信することで、コロナ禍でも子どもたちにお金の管理の仕方や退所後の生活設計に触れる機会を持ってもらうことができました。

あらためて皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げます。

小児がん克服のために —私たちは寄り添い支え続けます—



CCAJ
公益財団法人 がんの子どもを守る会
Children's Cancer Association of Japan

公益財団法人 がんの子どもを守る会



寄付募集期間：2020/09/01～2021/03/31
助成申請額：859,000円
助成金額：293,993円
寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31
助成申請額：300,000円
助成金額：300,000円

当会は小児がんで子どもを亡くした親が1968年に立ち上げた親の会です。その後、様々なご支援をいただきながら50年以上にわたり、小児がんに関するあらゆる支援活動を実施しております。

その中でも、この度公益財団法人お金をまわそう基金様よりサポートをいただいている「相談事業」は、当会創設以来継続している事業です。「小児がんで苦しむ家族のいない世の中にしたい」というミッションからスタートした事業ですが、創設者の「小児がんについての悩み事があれば、何でもあれいづでもいいから当会に一言電話してほしい。納得できるまで相談に応じる」という姿勢を保ちつつ、専任のソーシャルワーカーが相談者の状況に合わせて、よりきめ細かく、個別に相談に応じております。

治療中や退院後の患児やそのご家族の他、お子さんを亡くされた方からのご相談もあります。最近では、コロナ禍における患児やご家族の不安や悩みも寄せられるようになりました。

このような相談事業は、目に見える結果を示せるものではありませんが、小児がんの患児のご家族、そしてその周りの方々、時には小児がんを経験されたご本人にとって、様々な助けになる不可欠なものです。

実際にご支援くださった方、本事業にご理解を示してくださった方、関心を寄せてくださった方、本当にありがとうございます。皆さまからのあたたかいお気持ちを大切にこれからも支援活動を続けて参りたいと思います。

難病児とご家族に夢の旅を プレゼント



公益社団法人
ア・ドリームア・デイ IN TOKYO
(旅行事業)



寄付募集期間：2019/12/01～2021/04/30

助成申請額：1,650,000円

助成金額：766,209円

2007年から法人の基幹事業として実施してきた難病児とご家族の旅行招待は、2019年12月以来休止していました。新型コロナウイルスの影響は長期間に及んでいますが、2021年12月に流行が一時的に落ち着いたため、2年ぶりに旅行招待事業を再開しました。

現在（2022年1月）も予断を許さない状況が続いていますが、とくにターミナルステージに近いお子さんとそのご家族にとっては時間が限られていることから、小児科医師チームの一層の協力を得て安全対策を強化したうえで事業を実施したいと考えています。12月の受け入れでは、病児の主治医、法人の役員医師、訪問先の救急搬送病院の医師が連携して旅行プランを策定しましたので、今後の受け入れ基準作りに活かしていきたいと考えています。

また、長期にわたる事業休止期間中も、お金をまわそう基金を通じてご支援くださった方々からメッセージやお声がけを多数いただきました。直接の受益者である病児とご家族だけでなく、法人の事務局や役員にも大きな励ましとなりました。いつも温かいお力添えをありがとうございます。

クリエイトは2006年より民間フリースクールを運営しています。現在香川県で活動しているフリースクールはクリエイトを含めて2施設、子どもたちの学校以外の居場所はまだまだ限られています。

2021年度もコロナ禍を通して不登校が増加する中、クリエイトは様々な状況により学校以外で学ぶニーズがある子どもたちと共に、元気に過ごしました。

2021年度は毎日利用の児童生徒12名、その中には海外から来日して国の混雑が治まるまで日本に滞在中の子ども4名、相談や見学、体験に来た子ども8名、その他放課後英語クラスなどで情報提供した家庭24組の利用がありました。

お金をまわそう基金様で助成していただいて、いつ何時登校自粛の状況になっても大丈夫ようにオンライン教材を整備し、毎日の学習環境を備えることができました。またサッカーゴールなどの教材を購入し、我慢の多い状況でも教室の外でたくさんの体験活動ができるようにしました。

また昨年度に引き続きコロナ禍で運営状況が不安定な中、助成金をいただいたことで人件費を安定して確保でき、活動継続の大きな支えになりました。

いつでも安心して学べる地域に開かれたフリースクールとして、子どもたちの将来に希望を持って活動できることを、スタッフ一同心から感謝申し上げます。

『あなたの居場所はこちらにある』

子どもの未来をささえるフリースクール



特定非営利活動法人
クリエイト



寄付募集期間：2020/11/19～2021/12/31

助成申請額：2,841,880円

助成金額：2,841,880円



病気のある子どもの「きょうだい」の 心をつなぐオンライン事業



特定非営利活動法人
しぶたね



寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31
助成申請額：222,800円
助成金額：222,800円

しぶたねは重い病気のある子どもの「きょうだい」のための団体です。

難病の子どもは日本に25万人以上います。そんな子どもたちの「きょうだい」もまた、不安や寂しさ、怒り、自責感、プレッシャーなど複雑な気持ちを抱えて成長していきます。ストレスから心身の調子を崩したり、幼少期の体験が人格形成に影響を与え、大人になってからも生きづらさを抱えるきょうだいも少なくないのですが、支援はまだ数少ないのが現状です。

コロナ禍で、きょうだいのつらさは重くなりました。自分がコロナに罹ると、兄弟姉妹にうつって死んでしまうのではという恐怖から学校に行けない子や、兄弟姉妹が入院して、兄弟姉妹にも、付き添い入院をする母親にも数週間以上会えていない子、そんな状況でほとんど面会できないまま兄弟姉妹を亡くす経験をする子もいます。

みなさまからのご寄付で、金曜夜に「おやすみ」を言い合って終えるオンラインの小さな企画「シブレットのへやのとびらあけておくね」の継続と、子どもたちのリクエストに応じてオンライン遠足やボードゲーム大会、そして、兄弟姉妹を亡くした子どもたちが仲間と出会って楽しく過ごす会を始めることができました。

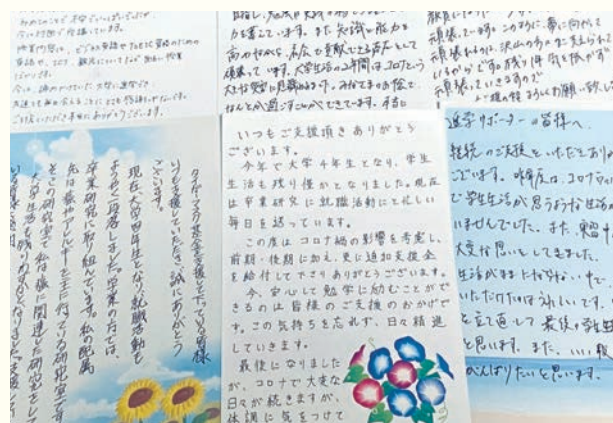
「レッドのへやができてから、金曜日がとても好きになりました」とお手紙をくれる子がいます。亡くなった兄弟姉妹の思い出のぬいぐるみや腕時計と一緒に会に参加してくれる子がいます。子どもたちの安心の場を守ってください、ありがとうございます。

働きながら大学に通う児童養護施設 出身の学生に支援金を届ける

長引くコロナ禍は、確かな後ろ盾がないまま、たった一人で社会に巣立った児童養護施設出身の若者たちの暮らしに深刻な影響を与えています。「外出自粛」や「営業規制」などにより、アルバイト収入が減少し、タイガーマスク基金「進学支援制度」への応募者が急増していますが、「お金をまわそう基金」様の助成により、困窮した学生たちに「返済不要の支援金」を届けることができました。

経験したことがない社会不安が世界中を覆う中で、それでも、学生たちの暮らしを心配し、ご寄付をお寄せくださった皆さまのお気持ちが本当にありがたく、心から感謝を申し上げます。ご支援は、学費や家賃、オンライン授業のためのパソコン購入や通信料などに充てられ、学生たちの「学び」を支えています。それは、経済的な面だけでなく心の支えにもなっており、たくさんの感謝のメッセージが届きました。あたたかい希望の明かりが灯る「寄付のプラットフォーム」をつくってくださった「お金をまわそう基金」様にも改めて御礼申し上げます。

今後も、「学びたい」という子どもたちが、過剰な努力を強いられることなく、安心して学び、暮らしていける社会創りを実現させるために努力して参りますので、一緒に子どもたちを見守ってくださいますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
タイガーマスク基金



寄付募集期間：2020/11/19～2021/11/30
助成申請額：2,685,000円
助成金額：2,685,000円

「この子と笑って暮らしたい」

医療的ケア児や重症心身障害児の地域生活をピアサポート



特定非営利活動法人

みかんぐみ

寄付募集期間：2020/04/01～2021/03/31

助成申請額：842,800円

助成金額：842,800円

寄付募集期間：2021/04/01～2022/03/31

助成申請額：342,000円

助成金額：342,000円

みかんぐみは、医療的ケアや重い障害のあるお子さんとご家族を支援するため、親子がともに楽しめるイベントの実施や、経験を活かした書籍の発行などの活動を行っています。

みなさまにご支援いただいている「ピアサポート事業」は、退院して間もない医療的ケア児や重度な障害児の保護者に対し、区内ですでに地域生活を経験している保護者（ピア）による交流会を開催し、地域生活の見通しが持てるような知識やノウハウを提供する杉並区との協働事業です。

皆様からのご寄付により、これまでボランティアベースで行ってきたスタッフに人件費を支払うことが可能になりました。13名のピア自身も障害のある子を育てながらの活動ですが、対面とオンラインを組み合わせるの情報共有により、積極的参加ができています。自身の体験が他の誰かの役に立ち、さらに「対価」を得られるという二重の喜びと自信につながっており、本事業を支えてくれました。

温かいご支援の一つ一つが、地域にこれから溶け込んでいこうと奮闘する障害児とその家族を支えるのはもちろんのこと、新たな雇用の形も作り出していただいていることに、みかんぐみ一同心からの感謝の気持ちでいっぱいです。先輩保護者（ピア）の前向きな様子は、多くの方に伝播し、さらに良いうねりを作っていくと私たち自身も気づかされています。この事業を支援いただき、誠にありがとうございます。

地域で生きる夢と幸せをともに実現する

～放課後等デイサービス（重症心身障害）～



わいわいくらぶは秋川地域で唯一、重症心身障害の指定を受けている放課後等デイサービスです。重症心身障害とは重度の知的障害と重度の身体障害が重複している状態を指します。こういった、重症心身障害児の居場所づくりや療育などの、家族を支える事業はニーズこそあれど、事業として継続することが難しいため、なかなか数が増えていない現状があります。その理由として人件費の高い専門職の配置が必要なことや、体調維持が難しい子どもが対象のため、キャンセルが多いことなどが挙げられます。当事業所も厳しい経営環境にありますが、『必要な資源は赤字でも展開、継続する』という当法人の信念のもと活動を継続しています。

お金をまわそう基金からの寄付金は、福祉サービスの要である運営費に充てさせていただいています。そのなかでも、主に支援力の向上に注力することによって、利用者により良い環境の中で充実した時間を過ごしていただけます。また、それらを継続することにより、安定したサービスが提供できるようになり、利用者のみならず保護者のよりどころの一つとしてつながることが出来ています。

わいわいくらぶでは、助成金なしでは作り上げることが難しかったものがたくさんあります。支援して下さった皆様には心からお礼申し上げます。今後も、当事業所が多くのニーズに応えられるようご賛同いただければ幸いです。



特定非営利活動法人

秋川流域生活支援ネットワーク
(わいわいくらぶ)

寄付募集期間：2020/04/01～2021/03/31

助成申請額：483,840円

助成金額：483,840円

寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31

助成申請額：673,200円

助成金額：673,200円

学習機会に恵まれない子どもたちの 夢の実現をサポート



特定非営利活動法人 福岡教育サポート



寄付募集期間：2019/12/01～2021/03/31

助成申請額：624,000円

助成金額：624,000円

寄付募集期間：2021/04/01～2022/03/31

助成申請額：936,000円

助成金額：936,000円

私たちは「貧困世帯の子どもたちに学力と進路の保障を！」をスローガンに、すべての子どもたちに教育と進路の機会均等をサポートするNPO法人です。

現在、日本における子どもの貧困率は13.9%（平成28年国民生活基礎調査の概況：厚生労働省）、約7人に1人の子どもが貧困となっています。一人親世帯など経済的に苦しい家庭は塾にも行けず、「経済格差＝教育格差」となっているのが実情です。

そこで、経済的理由で塾に行けない子どもたちに対して何かできないかとの思いで、無償の学習塾を2016年にスタートさせました。おかげさまで、お金をまわそう基金様へ寄せられた多くの皆様からのご支援などにより、当初は1教室で講師2人、生徒3名で始めた事業も、現在では4教室で講師24人、児童・生徒25名まで増やすことができました。

当塾の特徴は1対1の完全個別指導で、講師が勉強だけでなく相談にもり、生徒にしっかりと寄り添い学力向上に取り組んでいる点です。昨年3月は第1志望の公立高校に4名全員が合格しました。このように、経済的な理由から希望の進路を断念しようとしている子どもたちへ、支援の手を差し伸べて少しでも夢の実現をサポートしたいという私たちの願いも、少しずつ形となってきています。今年も早々に目標金額が達成できました。本当に感謝しています。この金額はほとんどが教室の借用料と講師への交通費に充てられます。改めまして皆様からのご支援に感謝申し上げます。

アスリートセーブジャパンは、「アスリートの発信力」と独自コンテンツの「いのちの教室」を社会課題解決のツールとして活動している団体です。

スポーツ・学校・企業の安全な環境づくりを提唱するために、AED・熱中症・脳震盪などの知識をもったアスリートが講師となり、AED講習を中心に、いのちの大切さや、いざという時の対処法を伝えています。

また、登壇したアスリートの専門競技の体験や講演もセットで実施することで、スポーツの素晴らしさを伝えています。実施場所は、学校・企業・イベントと多岐に渡ります。

本事業は、社会課題である4.7%というAEDの使用率を上げること、アスリートを講師として起用することで、スポーツの普及・安全なスポーツ環境の構築・セカンドキャリアの支援にも繋がっています。

【いのちの教室を通じて発信したいこと】

- ①いのちを大切にする心
- ②主体性・助け合い・思いやりの心を持つ人材の育成
- ③コミュニケーション能力の高い人材の育成
- ④学校・スポーツ・職場の安全な環境づくりの提唱

当初は10名ほどでスタートし、現在では80人を越えるアスリートに参加いただけるようになりました。

今期はコロナ渦で、予定していた事業のすべてを実施することができませんでしたが、中止になった地域については、再度チャレンジできるよう、開催元と調整しております。

お金をまわそう基金を通して寄せられたみなさまのご寄付は、主に印刷費・交通費・宿泊費として活用させていただいております。

改めましてみなさまからのご支援に感謝申し上げます。

ASJ「いのちの教室&スポーツ教室」 を全国で実施したい！



一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN



寄付募集期間：2020/04/01～2020/12/31

助成申請額：1,500,000円

助成金額：146,594円

寄付募集期間：2020/11/19～2021/12/31

助成申請額：300,000円

助成金額：300,000円

ウルシの苗木支援で、サステナブルな天然素材「漆」の未来を次の世代に！



特定非営利活動法人
ウルシネクスト



寄付募集期間：2020/11/19～2021/11/30
助成申請額：1,980,000円
助成金額：1,481,066円

「漆」は、はるか縄文時代から日本人の生活を、国の宝を、文化・芸術を支えてきた、日本が世界に誇る天然素材です。しかし、「漆＝Japanese lacquer」と言われるほど日本文化を象徴する「漆」は、現在自給率がわずか5%しかありません。95%は中国からの輸入に依存しているのが現状です。

ウルシネクストは、この自然の恵み「漆」を、私たちの手で増やし、漆の未来を次の世代に繋いでいきたい、という想いで、ウルシの苗木支援による「漆の森づくり」活動を行っています。

皆さまのご支援のおかげで、2019年の岩手県盛岡市上米内・藪川、福島県飯舘村をはじめ、2021年は岩手県紫波町、秋田県五城目町、宮城県南三陸町などに植樹地が広がり、お金をまわそう基金を通じて寄せられたご寄付で、これまでに約2,000本のウルシの苗木を植樹することができました。皆さまのご支援に改めまして感謝申し上げます。

2022年は、さらに2,000本の苗木を、これらの地域への継続支援や、新たに植樹を検討している地域に支援を広げていきたいと考えています。「漆の森づくり」は、一朝一夕に結果が出ない先の長い事業ですが、皆さまからのご支援は必ず漆の未来に繋がります。長い目で見守っていただき、一緒に漆の未来を次の世代に繋いでいけたら幸いです。

引き続き皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

NPO法人モンキーマジックは、障害者クライミングの普及を通じて多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指して2005年から活動しています。2012年からは、障害があってもなくても一緒にクライミングを楽しめる交流型クライミングイベント「マンデーマジック」を進めてきました。

このイベントでは、障害の有無に関係なく「仲間」としてのつながりが広がり、相互理解が深まっています。マンデーマジックは2020年11月の東京開催で、記念すべき100回目を迎えることが出来ました。この間、一度も休まず参加した皆勤賞の視覚障害者の方もいらっしゃいます。同じ場所で、同じルールで楽しめるクライミングは、障害者と健常者が「助ける・助けられる」関係ではなく、「クライミング仲間」という関係を成立させることができるのです。

マンデーマジックは、2020年に続き2021年も、新型コロナウイルス感染拡大により、幾度か中止を余儀なくされました。しかしその都度、感染状況をみながら、感染拡大防止対策を整え開催してきました。通常開催より少ない参加者ではありますが、視覚障害等があり外に出られなくなっていた方々が、仲間との再会を心から喜んでくれました。

みなさまからのご寄付は、2020年度のイベントスタッフの交通費等、マンデーマジックの運営費に充てさせていただきました。参加定員を限定しての企画運営の中ではとても有難く、引き続いてたくさんの元気と笑顔を広げていきたいと思ひます。

見えない壁だって超えられる

－ 交流型クライミングイベント －



特定非営利活動法人
モンキーマジック



寄付募集期間：2020/01/01～2020/12/31
助成申請額：630,000円
助成金額：73,737円

「若者たちに一步踏み出すきっかけを！」 多様な大人との出会いの場を提供しています。



認定特定非営利活動法人 ハーベスト



寄付募集期間：2020/05/01～2021/04/30

助成申請額：1,600,000円

助成金額：103,125円

寄付募集期間：2021/05/01～2022/04/30

助成申請額：1,500,000円

助成金額：180,900円（2021/11/30現在）

NPO法人ハーベストは、若者たちが多様な大人と出会う事で自身の持つ可能性に気付いたり、将来の航路を見出していきけるきっかけとして、キャリアセミナーなどのプログラムを宮城県内の中・高校生たちに提供しています。

今年度はおかげ様で、感染対策を行いつつ予定していた19プログラム（キャリアセミナー・トークフォークダンス）を無事に開催することができました。

対話型のワークショップ「トークフォークダンス」は、オンラインでの実施に挑戦し、地元はもとより全国各地からオンラインで参加していただいた皆さんと、宮城県の中高校生約100名が対話を重ねるという場を史上初めて創り出すことができました。また「キャリアセミナー」も今年度初めてオンラインによる開催に成功しました。このように感染拡大の影響に左右されずにプログラムを提供できる体制づくりを着実に進化させています。

また「志ワカル塾」のサイトでは、多くの市民講師の方にご自身の講話内容を紹介いただく動画の作成・公開に引き続き取り組んでおり、いずれは検索や分野別の選択が可能な専用の動画配信サイトの構築を構想しています。

引き続き中学生に必要な成長や自己探究の機会である出会いの場を創り出すというハーベストのミッションに取り組んで参ります。

これまでの皆様からのご支援・ご協力にスタッフ一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

私どもは中国伝統芸能「京劇」を日本で普及させるために設立された団体です。設立当初は主にホール公演を通して普及活動を実施してきましたが、「日本に根差した文化団体として活動を継続していくためには地域福祉や青少年教育にも貢献するべきではないか？」という思いから、福祉施設等への慰問公演を自主的に実施するようになりました。

この事業では「誰もが等しく文化に触れる機会を創出する」とともに、「将来の文化活動を担う青少年の育成」も目的としています。我々が創立した「世田谷こども京劇団」も参画し、彼らの上演経験を増やすとともに、青少年期から地域福祉に関わることとの大切さを伝えています。

当事業は今期初めて「お金をまわそう基金」に採択され、おかげさまでもちまして初年度より順調に助成申請額を達成することができました。実施についてはコロナウイルスの影響により危ぶまれましたが、世田谷の特別養護施設「千歳台福祉園」様にご協力をいただき、感染予防について十分に配慮をしながら、施設利用者に対しての京劇慰問公演を実施することができました。動きのある芸術に触れる機会の少ない施設利用者の皆様には新鮮に映ったようで、施設長からも高評価をいただきました。

コロナ禍はまだまだ続きそうな気配ではありますが、国内唯一の京劇団として事業継続できるよう尽力して参ります。皆様のご協力に感謝しますとともに、より一層のご支援をお願い致します。

中国伝統芸能「京劇」の 日本での振興活動と福祉支援



一般財団法人 日本京劇振興協会



寄付募集期間：2020/11/19～2021/03/31

助成申請額：140,000円

助成金額：140,000円

寄付募集期間：2021/08/01～2022/03/31

助成申請額：690,000円

助成金額：162,438円（2021/11/30現在）

新作能「オルフェウス」の 日本公演を世界に配信！



公益財団法人
山本能楽堂



寄付募集期間：2020/06/01～2021/05/31

助成申請額：2,000,000円

助成金額：174,346円

寄付募集期間：2021/08/01～2022/05/31

助成申請額：283,454円

助成金額：19,600円（2021/11/30現在）

2020年、世界は新型コロナウイルスによるパンデミックにより、地域間移動の「自粛」が求められました。ウイルスの拡大は、急速なグローバリゼーションが原因であるともされ、その対策のため、各国が国境を封鎖して、ヒトやモノの移動を制限しました。その結果、国境の内側では人々が連帯に目覚め、強い求心力が働き、逆に国境の外側に対しては、強い遠心力が働き、国際的な分断が広がってしまうのではないかと危惧されています。

その隙間を埋め、人々の心に安らぎをあたえ、未来に向かって前向きな気持ちを持つことによって、分断された世界を再び結びつけるのは、文化の力しかない私たちは信じています。コロナ禍で考えていたのは「同じ空の下に同じ思いの人がいる」ということ。国籍や文化、言葉は違っても、世界中の人々の心はきっと「文化の灯を消してはならない」という思いでつながっている。その思いが私たちの原動力となり、活動を続けることができたのです。

今回の事業では、世界有数の演劇祭であるルーマニアのシビウ国際演劇祭にオンラインで参加し、新作能「オルフェウス」を上演しました。動画配信により世界の人々に日本を代表する伝統芸能の「能」の魅力を楽しんでいただきました。

みなさまからのご寄付で、舞台でのLED照明演出が可能になり、「能」のより奥深い幽玄さや美しさをお伝えできるよう取り組むことが出来ました。ご支援をいただきましたみなさまに心より感謝申し上げます。

分野指定のご寄付は分野内の団体（事業）に分配されます

お金をまわそう基金では、分野を指定した寄付も受け付けています。

分野を指定した寄付は、その70%を分野に属する助成先団体の事業に配分して助成し、30%を特定資産とします。

児童または青少年の健全な育成を目的とする活動



文化および芸術の振興を
目的とする活動



子ども
分野

スポーツ
分野

文化・
伝統技術
分野

地域社会
分野

教育、スポーツを通じて豊かな
人間性の育成を目的とする活動



地域社会の健全な発展を
目的とする活動



お金をまわそう基金×休眠預金活用事業

平成28年12月9日、「民間公益活動を促進するための休眠預金等^{※1}に係る資金の活用に関する法律」が交付され、平成30年1月1日施行されました。お金をまわそう基金は、同法に定める指定活用団体「一般財団法人日本民間公益活動連携機構」より、2019年度資金分配団体^{※2}として採択されました。

当財団では実行団体として3団体を選定し、「医療的ケア児とその家族の夢を寄付で応援 / マッチング寄付プログラム」(3か年)を展開しています。

本プログラムの特徴



マッチング寄付

みなさまからの寄付に休眠預金等に係る資金から寄付額の3倍を加えて助成をします。



休眠預金等活用法

当基金は、休眠預金等活用法に基づく資金分配団体です。



SDGs

持続可能な開発目標 (SDGs)
「3:すべての人に健康と福祉を」
「10:人や国の不平等を無くそう」に関連する事業です。

※1「休眠預金等」とは、10年以上入出金等の取引がない預金等のことを指します。預金が「休眠預金等」となった場合、預金保険機構に移管され、最終的に「民間公益活動」の促進に活用される資金のことです。この制度により、社会の諸課題の解決に結びつく事業の創出と普及が加速するとともに、民間公益活動の担い手およびその支援の担い手の育成、効果的・効率的な成果評価の実施や情報公開の仕組み等の環境整備が期待できます。

※2「資金分配団体」とは、民間公益活動を行う団体(実行団体)に対して助成、貸付け又は出資を行う団体です。

ヤマオリ

子ども分野

2021年度は、当初予定していた事業を大幅に変更して交流事業を実施しました。2021年8月と12月に病児とご家族が在宅で楽しめる工作キットを自宅に届け、その作品やキットを見せ合うオンラインカフェを同年12月29日に実施しました。長年にわたり病児とご家族の夢の実現をご支援いただいているラグビー選手にエールを届けることをテーマに、ご家族同士で歓談の時間も設け、今の正直な声を聞くことが出来ました。

司会者には外部ゲスト(エヌアライアンス株式会社 代表取締役 山本ノブヒロ氏)を招いて、オンライン事業でも全員が会話に加わりやすい、和やかな雰囲気と交流の臨場感が出るよう工夫を凝らしました。接続トラブル等が起こりにくいよう、事前準備に時間をかけた点もご家族の負担を軽減できたように見受けました。

今後も新型コロナウイルスの流行は予断を許さない状況が続くため、オンライン事業の充実を図りながら、ご家族が社会から孤立しない多重の支援や関わり合いの場づくりが不可欠だと感じています。

医療的ケアが必要な難病児とご家族の励ましあいをサポート



公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO

Dream Cup 2021 #優しい筋肉さんありがとう



公益社団法人
ア・ドリームア・デイ IN TOKYO
(交流事業)

総事業期間: 2020/06/01~2023/03/31 (3か年)
総助成申請総額: 3,683,000円
助成金額: 1年目 2,270,000円
2年目 0円 (2021/11/30現在)

外出が困難な離島在住の医療的 ケア児と家族の応援プロジェクト！



公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を



総事業期間：2020/06/01～2023/03/31（3か年）
 総助成申請総額：11,141,950円
 助成金額：1年目 4,266,950円
 2年目 2,151,400円（2021/11/30現在）

『公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を』では、真の豊かな「共生社会」実現の為に、全国に30万人とも言われる難病を患う子どもとその家族の生きざまを通して、社会の様々な人たちが、いのちや家族、そしてしあわせを考えるきっかけを作り、外出が困難な医療的ケア児、難病児とその家族全員の旅行や、社会の人たちと交流するイベント等を実施しています。

2020年には、沖縄恩納村にレスパイト施設を建設しましたが、コロナ禍において活動が延期や中止になり、対面での活動は時期と回数を限定しての実施となりました。実際に初めて家族全員でお出かけをし、初めて飛行機に乗り、多くの方たちに迎ええられるという体験は、彼らに大きな勇気をもたらすことになりました。

また、今回オンラインでの活動も助成していただいたことで、離島から医療的ケア児とその家族全員の旅行やイベントにご招待する前に、オンライン・ウィッシュ・パッケージと称して、レスパイト施設や近隣の様子を案内したり、地域の方のお話を伺ったり、他の家族と交流するなど、多様な形態で、対象となる子どもとその家族が笑顔になる支援をさせていただくことが叶いました。

これからも、皆さまの温かいご支援を胸に、コロナに負けず、子どもたちとその家族のとおっておきの笑顔を引き出すことに全力を傾けて参りたいと思います。

そしていつか、皆さまにも、この交流の場にご一緒していただけることを願っています。

タニオリ

2021年度も前年に引き続き新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年でした。

しかし、このような状況だからこそNPO法人Linoは今まで実施したことのない場所と方法でツアーを行うという、新たな挑戦が生まれました。

医療的ケア児が通う特別支援学校では、行事や修学旅行の中止が相次ぎ、ただでさえ貴重な友人・仲間との団体旅行の機会が皆無となっていました。

そんな中、Lino内で医療従事者を交え話し合いを重ねた結果、例年のツアーの場所を沖縄からユニバーサル・スタジオ・ジャパンと東京ディズニーランドに変更し、タイミングを図り、実施に踏み切りました。

医療的ケア児を含めた障害をお持ちの方とご家族が、このような状況下でも安心してご参加頂けるのは、専門的な知識を備え、適切な対応を行うことが出来る医師や看護師による医療スタッフをはじめとしたサポートメンバーが、すぐ側で支えることが出来るからです。この体制を整えられるのは、ひとえに応援し、ご支援くださる皆さまのおかげと心から感謝しております。

諦めていた修学旅行や、友人・家族との特別な場を、本事業を通して提供できたことは、ご家族皆さまの絆と成長を生み出す大切な機会となり、それが次のチャレンジに向かう前向きな思いと勇気を育んでいけると、ご家族から頂いた感想から実感しています。

今年はさらに、医療的ケア児・者と家族、サポートスタッフ、地域の方々を巻き込んで、新しい取り組みにチャレンジしていきたいと思ひます。

今後どうぞよろしくお願いいたします。

医療的ケア児も重症心身障害児も家族 との当たり前前日常を愉しめる社会へ



特定非営利活動法人 Lino



総事業期間：2020/06/01～2023/03/31（3か年）
 総助成申請総額：9,808,720円
 助成金額：1年目 2,976,120円
 2年目 3,486,300円（2021/11/30現在）

お金をまわそう基金 活動紹介

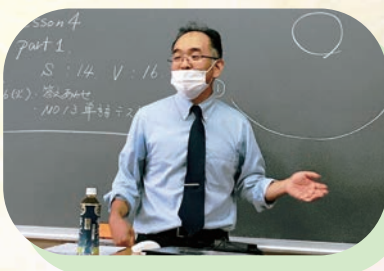


寄付者・代表者インタビュー

Shall we KIFU?

Shall we KIFU?

代表者インタビュー

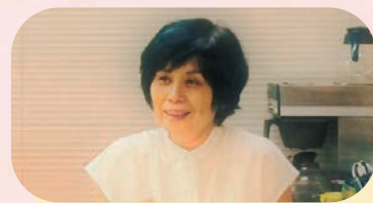


Shall we KIFU?

寄付のススメ



インタビューの
詳細はコチラ



当財団にご寄付いただいている方に、寄付体験をざっくりと語っていただく「Shall we KIFU?—寄付のススメ」。2020年度から始まったこの企画、今年度は4名の方に、寄付をするようになったきっかけや支援者として寄付に込める思いを伺うことができました。快くインタビューに応じてくださった支援者のみなさま、ご協力ありがとうございました。

また、寄付者インタビューの中で、寄付のきっかけを「活動の意義や想いを知った時」と回答した方が複数いたことから、新たに助成先団体の代表者へのインタビューを開始しました。2021年度は「認定特定非営利活動法人ハーベスト」の代表理事 山崎賢治さんと「公益財団法人あいである」の代表理事 木皿昌司さんに、非営利事業を始めた動機や、団体の活動がもたらす社会への影響、支援者への感謝などをお聞きし、生の声をお届けすることができました。

助成先団体の活動報告



ふたば

夢をあきらめない強さを育む
「ふたば」の支援活動



ウルシネクスト

晩秋の盛岡
漆の森づくりの一日



Lino

だれでも旅行を楽しめるように
～ Lino ツアー 2021 in USJ ～



クリエイト

クリエイトの子どもたちが
クラシックと出会った



ウルシネクスト

漆が見せてくれる未来
～漆の発信基地・上米内から～



日本京劇振興協会

中国の伝統芸能
「京劇」で福祉支援！



ATHLETE SAVE JAPAN

「いのちの教室」で学べるもの



難病の子どもとその家族へ夢を

オンライン・ウィッシュ・バケーション
@沖縄を開催！



活動報告の
詳細はコチラ

支援者からのご寄付が社会を良くするためにどのように活用されているか。
助成先団体の活動をより理解していただくために、当財団のスタッフが団体を訪問し「活動報告」を発信しています。
第6期は8団体への訪問に留まりましたが、子どもの学習支援や漆の森づくり、医療的ケア児の旅行、福祉施設における公演など、さまざまな活動をご紹介しつつ、支援者のみなさまからお預かりした大切な寄付金がかかるような活動に使われているのかを報告させていただきました。コロナ禍にあってもあきらめずに活動を行っている助成先団体をこれからもご支援くださいますようお願いいたします。

助成先団体とのセミナー

助成先団体の活動や理念を多くの方に知っていただくため、セミナーを実施しています。ご来場のみなさまに安心して楽しんでいただくため、十分な感染予防対策を行いながら開催しています。



セミナーの
活動報告は
コチラ



京劇の様式美 ～中国伝統劇への誘い～

2021年 10月 19日
当財団 2 階会議室

京劇とは中国の伝統的な古典演劇の一つ。「一般財団法人日本京劇振興協会」の張春祥さんと張烏梅さんが京劇の様式美をレクチャーしてくれました。衣装の着付け体験は参加者に大好評でした。



大住力×澤上篤人 対談会 「働くとお金と時間と豊かさ、について」

2021年 11月 11日
当財団 2 階会議室

「公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を」の代表 大住力さんと、当財団の代表であり長期投資の第一人者でもある澤上篤人。異なる背景を持った二人が人生の豊かさについて語り合いました。



助成先団体交流会

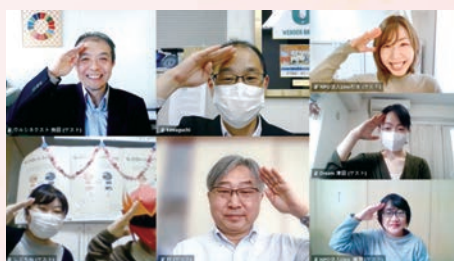
第1回：2021年 10月 19日

第2回：2021年 11月 11日・第3回：2021年 11月 12日



当財団の助成先団体の交流会を開催しました。

10月5日(火)は、「ほかの団体ってどうやって寄付金や支援者をあつめているの?」、11月11日(木)と12日(金)は、「ほかの団体ってどうやって地域や自治体、企業と連携しているの?」をテーマに、成功事例の発表や情報交換を行いました。なかなか機会がないこのような交流会は、事業の枠を越えて、各団体の参考にも刺激にもなったようです。私たちも、精力的に活動に励む助成先団体のみなさまと、一緒に仕事をさせていただけることに改めて感謝した一日でした。



交流会の他
情報満載の
FB ページへ!

＼ TOPIC! /

さわかみマイルで寄付ができます

さわかみグループが考える世の中づくりに、たくさんの人に参加してもらいたい。そんな想いから生まれたのが「さわかみマイル」です。
さわかみファンドの定期定額購入時や、さわかみグループのボランティアやイベント参加で貯まる「さわかみマイル」を、お金をまわそう基金に寄付していただくことができます。
「さわかみマイル」は1マイル＝1円。通常の寄付と同じように団体や分野を指定できます。
たまったマイルを誰かの応援に使う。未来の社会のために使う。
マイルではじめる世の中づくり。新しい「きもちのぜいたく」です。



決算報告

正味財産増減計算書

(2020年12月1日～2021年11月30日)

(単位：円)

科 目	当年度（第6期）	前年度（第5期）	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
（1）経常収益			
受取寄付金	36,789,097	44,120,303	△ 7,331,206
受取寄付金	10,000	9,000	1,000
受取寄付金振替額	36,779,097	44,111,303	△ 7,332,206
受取補助金等	10,297,227	15,877,575	△ 5,580,348
受取補助金等振替額	10,297,227	15,877,575	△ 5,580,348
特定資産運用益	499	374	125
特定資産受取利息振替額	499	374	125
経常収益計	47,086,823	59,998,252	△ 12,911,429
（2）経常費用			
事業費	41,055,014	53,928,952	△ 12,873,938
（うち支払助成金）	15,944,800	28,151,885	△ 12,207,085
管理費	6,070,756	6,174,753	△ 103,997
経常費用計	47,125,770	60,103,705	△ 12,977,935
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 38,947	△ 105,453	66,506
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 38,947	△ 105,453	66,506
2. 経常外増減の部			
（1）経常外収益	0	0	0
（2）経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 38,947	△ 105,453	66,506
一般正味財産期首残高	△ 210,906	△ 105,453	△ 105,453
一般正味財産期末残高	△ 249,853	△ 210,906	△ 38,947
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	45,553,817	54,278,661	△ 8,724,844
受取民間補助金	13,673,241	23,166,950	△ 9,493,709
特定資産運用益	499	374	125
特定資産受取利息	499	374	125
一般正味財産への振替額	△ 47,076,823	△ 59,989,252	12,912,429
当期指定正味財産増減額	12,150,734	17,456,733	△ 5,305,999
指定正味財産期首残高	51,454,147	33,997,414	17,456,733
指定正味財産期末残高	63,604,881	51,454,147	12,150,734
正味財産期末残高	63,355,028	51,243,241	12,111,787

貸借対照表

(2021年 11月 30日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	6,413,718	未払金	6,267,694
未収金	0	預り金	395,877
流動資産合計	6,413,718	流動負債合計	6,663,571
2. 固定資産		2. 固定負債	0
(1) 特定資産		固定負債合計	0
子ども分野指定寄付	10,965,416	負債合計	6,663,571
スポーツ分野指定寄付	62,744	III 正味財産の部	
文化・伝統技術分野指定寄付	59,354	1. 指定正味財産	
地域社会分野指定寄付	683,309	寄付金	52,939,492
財団運営費（公益目的事業）	30,082,386	民間補助金	10,665,389
財団運営費（法人管理）	9,974,138	指定正味財産合計	63,604,881
休眠預金等活用事業	11,155,334	（うち特定資産への充当額）	63,604,881
什器備品	204,200	2. 一般正味財産	△ 249,853
ソフトウェア	418,000	正味財産合計	63,355,028
特定資産合計	63,604,881	負債及び正味財産合計	70,018,599
(2) その他固定資産			
その他固定資産合計	0		
固定資産合計	63,604,881		
資産合計	70,018,599		

受取寄付金の内訳（第6期）（単位：円）

子ども分野	11,571,121 円
スポーツ分野	350,618 円
文化・伝統技術分野	433,978 円
地域社会分野	1,668,200 円
財団運営費	31,529,900 円
合計	45,553,817 円

※指定正味財産の受取寄付金の内訳です。助成先団体を指定して寄付されたものは、属する分野に合算しています。
※財団運営費はさわかみホールディングスほか、のべ140人の支援者の皆さまからご寄付をいただきました。

監査報告書	令和4年2月2日
公益財団法人お金をまわそう基金	
代表理事 澤上 徹人 殿	
公益財団法人お金をまわそう基金	
監事 桑原 一	
私は令和2年12月1日から令和3年11月30日までの事業年度における理事の職務を監査いたしました。その方法及び結果につき、以下のとおり報告いたします。	
1. 監査の方法及びその内容	
私は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその付属明細書について検討いたしました。	
さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの付属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。	
2. 監査の結果	
(1) 事業報告等の監査結果	
① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。	
② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実 は認められません。	
(2) 計算書類等の監査結果	
計算書類及びその付属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。	
以 上	

第7期に向けて



コロナ禍にあっても、私たちの想いに共感し、支援してくださった多くの方々がいました。大切な寄付金は、みなさまの応援や期待や励ましとともに、助成先団体に届けさせていただきました。私たちの背中を押してくださる大きな力を感じながら進んできた1年。改めて心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

新型コロナウイルスは絶えず変異しながら世界中で猛威を振るっています。当財団や助成先団体の事業もまだまだ困難が続くことでしょう。第7期の私たちは、助成先団体をさらに増やし、より多くの事業を支えていきたいと考えています。「お金をまわそう」と積極的に発信し、社会課題の解決を目指す団体に伴走し、支援を届けます。

このコロナ禍を契機に、人々の「お金の使い方」が変化しています。困難な状況にある人々の存在が浮き彫りになり、その支援に共感する人々の意識が高まっているという手ごたえを感じます。消費者を対象とした調査^{※1}では、8割弱が「自分さえよければいいという消費行動はとりたくない」と回答しています。また、同調査では利他的消費を志向する人の幸福度が高いという結果も出ています。この意識が「寄付文化」を高め、お金を使った人が「こころのまんぞく」や「きもちのぜいたく」を享受できる社会を創っていくのです。人々の意識の変化や社会への適応は、社会経済活動の大きな変容を期待させる明るいきざしと言えるのではないのでしょうか。

「雲外蒼天」。困難を乗り越えた先には、明るい未来が開けています。第7期、お金をまわそう基金は晴れ渡った青い空を目指して、厚い雲を突き抜ける勢いで事業に邁進してまいります。支援者のみなさまには、どうか引き続きお見守りくださいますようお願い申し上げます。

※1第一生命経済研究所「新型コロナと消費者意識調査」(2021年)

寄付の取り扱いについて

当財団を通じたご寄付は、税額控除の対象です。

当財団は、内閣府からの税控除の資格を有する公益法人として認定されています。

当財団で受け付けている寄付は以下の4種類です。

寄付の種類	1 個別団体への指定寄付	寄付を受付中の助成先団体の中から団体を指定して寄付することができます。	
	2 分野への指定寄付	4つの分野（子ども/スポーツ/地域社会/文化・伝統技術）の中から分野を指定して寄付することができます。	
	3 運営費用への寄付	当財団の運営費用を指定して寄付をすることができます。	
	4 一般寄付	上記1～3の使途を指定しないで寄付をすることができます。	
寄付の使いみち	個別団体への指定寄付	寄付金の100%を、指定された団体へ助成します。 寄付額がその事業年度に募集している金額を上回るときは、超過分をその団体が属する分野の助成財源（以下、特定資産といいます）とします。	
	分野への指定寄付	寄付金のうち70%を、その事業年度に指定された分野の団体へ配分して助成します。寄付金のうち30%を特定資産とします。配分する金額がその事業年度に募集している金額を上回るときは、超過分をその分野の特定資産とします。	
	特定資産	特定資産は分野ごとに管理し、運用します。毎年度、事業年度末日時点の評価額を求め、その評価額の10%を翌事業年度のその分野に属する団体へ配分して助成します。	
	運営費用への寄付	当財団の公益事業費または法人管理費に使用します。	
	一般寄付	その事業年度の当財団の公益事業費または法人管理費に使用します。	
寄付の方法	毎月継続寄付	・クレジットカード払い 当財団のウェブサイトより、寄付金額を指定の上お申込み下さい。 ・口座振替 申込用紙をお送りしますので、メールまたはお電話にて用紙をご請求下さい。	当財団のお問合せ先 ・ウェブサイト https://okane-kikin.org/ ・インターネット検索 お金をまわそう基金 ・電話番号 03-6380-9864（平日10時～17時） ・Email info@okane-kikin.org ・所在地 〒102-0082 東京都千代田区一番町29番地2 ※現在寄付を受け付けている分野・団体については、当財団ウェブサイトまたはお電話にてお問合せ下さい。 ※寄付の使途を指定しない場合は「一般寄付」として取り扱いいたします。
	都度寄付	・クレジットカード払い 当財団のウェブサイトより、寄付金額を指定の上お申込み下さい。 ・銀行振込 当財団のウェブサイトより、必要事項をご入力の上、お申込み金額を当財団指定口座へお振込み下さい。 ・郵便振替 申込用紙をお送りしますので、メールまたはお電話にて用紙をご請求下さい。	

※寄付金の返金は致しかねます。予めご了承ください。

その他の寄付の方法



「さわかみマイル」を
1マイル＝1円で寄付できます。



インヴァスト証券の「社会貢献
ポイント」を1ポイント＝1円で
寄付できます。



Tポイントやクレジットカード
決済で寄付できます。



古本等の買い取り代金を
寄付することができます。



ソフトバンクの利用料金と一緒
に寄付することができます。

遺贈

当財団では遺贈のご相談をお受けしています。遺贈で社会貢献をお考えの方はご相談下さい。



公益財団法人
お金をまわそう基金